

## お詫びと訂正

ペリネイタルケア 2022年夏季増刊におきまして、下記の内容に誤りがございました。著者ならびに関係者の皆さま、読者の皆さまに謹んでお詫び申し上げますとともに、以下に訂正いたします。加えて、訂正後の全ページを掲載いたします。

『事例でまなぶ 助産師ができる周産期のメンタルヘルスケア』

「第1章 周産期メンタルヘルスに詳しくなろう A 周産期メンタルヘルスの病態生理  
07 助産師の助産観が産婦の育児観に及ぼす影響」

p. 49 本文左段7行目

【誤】

これはある母親が、出産中の産婦がどれだけセンシティブであるか、出産中の助産師の言動がどれだけ強く女性に影響を及ぼすか、について日本妊産婦支援協議会りんごの木 理事の中野裕子が語った言葉です。

【正】

これはある母親が、出産中の産婦がどれだけセンシティブであるか、出産中の助産師の言動がどれだけ強く女性に影響を及ぼすか、について語った言葉です<sup>1)</sup>。

p. 49 本文右段5行目

【誤】

母親たちの言葉からひも解いていきます。(以下は、筆者が「日本妊産婦支援協議会りんごの木」および「出産ケア政策会議」の活動などで出会った母親たちが語った出産体験談より抜粋したもの)

【正】

母親たちの言葉<sup>2)</sup>からひも解いていきます。

p. 52 用語解説「助産観」5行目

【誤】

発展を導く構造を構築する必要がある<sup>1)</sup>

【正】

発展を導く構造を構築する必要がある<sup>3)</sup>

p. 52 用語解説「助産観」12行目

【誤】

と<sup>2)</sup>とされています。

【正】

と<sup>4)</sup>とされています。

p. 53 最新トピックス「助産師による継続ケアの効果」5行目

【誤】

を得ました<sup>3)</sup>。

【正】

を得ました<sup>5)</sup>。

【誤】

1) 古宇田千恵. 産む側が求める継続ケア. 第 35 回日本助産学会学術集会. 2021.

2) International Confederation of Midwives. 2021. 1.

<https://internationalmidwives.org/assets/files/general-files/2021/12/professional-framework-en.pdf> [2020. 2. 19]

3) International Confederation of Midwives (ICM) . ICM' s Professional Framework for Midwifery. 2021.

<https://internationalmidwives.org/our-work/policy-and-practice/icms-professional-framework-for-midwifery.html> [2020. 2. 19]

【正】

1) 中野裕子（日本妊産婦支援協議会りんごの木 理事）の言葉.

2) 筆者が「日本妊産婦支援協議会りんごの木」および「出産ケア政策会議」の活動などで出会った母親たちが語った出産体験談より抜粋.

3) International Confederation of Midwives. 2021. 1.

<https://internationalmidwives.org/assets/files/general-files/2021/12/professional-framework-en.pdf> [2020. 2. 19]

4) International Confederation of Midwives (ICM) . ICM' s Professional Framework for Midwifery. 2021.

<https://internationalmidwives.org/our-work/policy-and-practice/icms-professional-framework-for-midwifery.html> [2020. 2. 19]

5) 古宇田千恵. 産む側が求める継続ケア. 第 35 回日本助産学会学術集会. 2021.

07

# 助産師の助産観が産婦の育児観に及ぼす影響

古宇田千恵

日本妊産婦支援協議会りんごの木 代表／出産ケア政策会議 共同代表

## このテーマで何を学ぶ？

- 出産中の産婦は、助産師の言動から助産師の助産観を敏感に察知しています。
- 出産中の産婦の感覚は、出産の主導権が自分にあるのか医療者にあるのか、どちらにあると思うかによって影響を受けます。
- 出産のときに得た感覚によって育児観は影響を受けます。

## 産婦は誰に主導権があるかを察知する

「出産中の産婦は、助産師の言葉、声のトーン、表情、しぐさ、触れる手を毛穴一つひとつで感じとっています。そして毛穴から吸収されたものは全身の血管を通して女性の身体と心の隅々に浸透し、産後も排出されることなくその後の子育てや人生に影響し続けます」。これはある母親が、出産中の産婦がどれだけセンシティブであるか、出産中の助産師の言動がどれだけ強く女性に影響を及ぼすか、について語った言葉です<sup>1)</sup>。

産婦の全身の毛穴一つひとつに吸収されるものとは何なのでしょう。出産中の産婦

は、助産師の言動からどのようなメッセージを読み取っているのでしょうか。そして、それはどのように子育てに影響を及ぼすのでしょうか。母親たちの言葉<sup>2)</sup>からひも解いていきます。

Aさん：助産師さんって、「はい、いきんで！」とか言ってくれる人やと思っていたんですよ。でも（助産師の）Rさんは全然何も言うてくれへんし。「痛いね〜」「上手よ〜」と腰をさすって言ってくれるんですけど。あれ？「いきんで！」とか言わない、いついきむんやろ？って、最後の最後まで私はRさんに産ませてもらおうって思っていたんですね。「自分で産む」という覚悟が

決まっていなかった。それでRさんに言ったんです。「どうしたらいいの〜？」って情けない感じで。そしたらRさんが「好きにしていっていいよ〜」って言ってきて。でも私は「『好きに』って、何〜？」みたいな感じで。でもそう言われたらもうどうしようもない、「自分で産む」という覚悟がガチッと決まって。

Bさん：陣痛室にやって来た助産師さんに「痛いです〜」と痛みを訴えたら、助産師さんはモニターを見て「今、痛くないでしょ」とだけ言って立ち去っていったんです。自分の感覚を無視され、モニターの数値で判断されたことが本当にショックでした。

Aさんは前回の出産の経験から、陣痛とは助産師の指導に従って進めていくもの、つまり「医療者に主導権がある」と思い込んでいました。前回の出産から9年もたっているにもかかわらず、そのときの助産師の言動から学んだ「主導権を医療者に手渡す」ことが身体に染みついていたかのように、それを繰り返してしまいそうになります。スクワット、姿勢の誘導、努責の誘導など陣痛を促進させるケアを、医療介入のない自然出産にさせるために、あるいは短い時間で分娩を終わらせるために懸命に行っている助産師には、「産婦から主導権を奪っている」という自覚はないかもしれません。しかし、そのようなケアは、Aさんが語るように「産ませても

らおう」と産婦に思わせるケアになっていないでしょうか。

R助産師は妊娠中から継続的にAさんにケアを行っていました。R助産師もAさんも本音で語り合い、今までどのように生きてきて、どのように育てられてきたか、何を大切に暮らしているか、家族との関係などについてお互いに深く知り、信頼関係を積み重ねていきました。「好きにしていっていい」という言葉は、助産師が産婦を信頼しているからこそ言える言葉です。そして、それを言った助産師を信頼しているからこそ産婦は自分を信頼して「自分の好きにしよう」と覚悟を決めることができるのです。

Aさんは助産師の言動から、陣痛を進めるのは自分であることに気付きます。一方Bさんは助産師の言動から、自分の感覚ではなく、数値に基づいた助産師の判断で進められていくことから、陣痛を進めるのは医療者であると思ひ込みます。

## 主導権の認識が出産体験と育児観に影響する

Aさんのような体験をした別の母親は、「妊娠中から信頼している助産師さんが自分を信じて待ってくれ、自分の体を信じてやり遂げた、という体験のおかげで、自分を信じていることができるようになり、親としての自信につながりました」と語っています。一方Bさんのような体験をした別の母親は、「『産ませてもらった』という感覚が強く、『自分な

んで』と親としての自信を持ちにくかった』と感じています。

Aさん：そこ（「好きにしているのよ〜」と言われて）から私めちゃくちゃ真剣になりました。おまた広げて「こういう角度がいいのかな？」「重力使うとしたらこうやったらいいかな？」といろいろ体勢を変えて。で、赤ちゃんに「いい？ 今？ 今、行く？」みたいな感じで訊いて。「赤ちゃん、しんどくない？ おいで、お母さん、あなたに会いた〜い！」って思ったときに、にゆるにゆるにゆる〜んって、つる〜んって、陣痛の絶頂とともに赤ちゃんが生まれてきた。「私が産んだ」というんじゃなくて、赤ちゃんが自分から生まれてきた。自分で「自分が産むんだ」と覚悟が決まったときに赤ちゃんがそれを察して、つる〜んと生まれてきてくれた。だからすごく気持ちが良かったです。

Cさん：助産師さんはずっと忙しそうで放っておかれていて、とにかくず〜と痛かったです。陣痛が来たらあまりの痛さに体を反らせるということをずっとやっていました。陣痛促進剤（子宮収縮薬）は使わなかったんですが、陣痛と陣痛のお休みがあった感じが全くなくて、産み終わった後、全身が筋肉痛で、こんなところに筋肉があったんだと思うくらいでした。お産の間、ずっと体が硬直していたんだと思います。

Aさんは助産師の言葉から、自分の身体の内側から湧き起こる感覚に集中し、赤ちゃんの存在を感じ、出産が赤ちゃんとの共同作業であることに気付きます。一方、Cさんは痛みに耐えるのに精一杯で、赤ちゃんの存在を感じることはありませんでした。

Aさんのような体験をした別の母親は、「赤ちゃんが産道を通る感じなど全てが分かる感覚」や「自分と赤ちゃんの一体感」「赤ちゃん自身が生まれてこようとする力」を感じ、子どもとの絆や子どもへの信頼をよりどころにして、安心して育児ができると語っています。一方、Cさんは、「『かわいいと思わないといけない』と思って育てていた」と語り、そんな自分に母親としての自信を感じられずにいました。また、Cさんと同じような体験をした別の母親は、「『この子のせいでこんな目にあった』という気持ちにふたをして育てていた」と自分の子育てに不安を抱いていました。

このように、出産中の助産師の言動は出産体験、そして母親の育児観に影響を及ぼすように思われます。助産師の言動には、その助産師が持つ助産観が反映されています。従って、産婦が助産師の言動から受け取った育児観は、その助産師の助産観が影響しているといえるでしょう（図）。

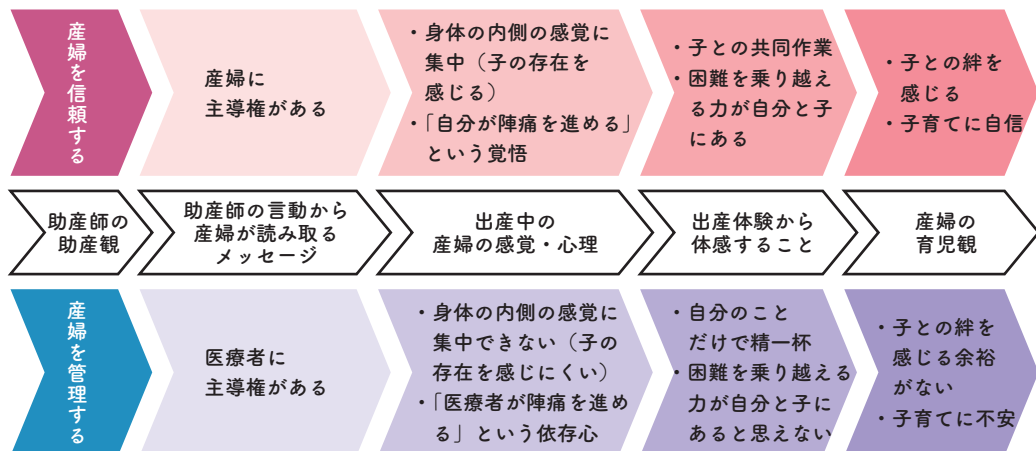


図 〈助産師の助産観〉が〈産婦の育児観〉に及ぼす影響

## 産婦は助産師の助産観を察知している

助産師が助産を「産婦を信頼すること」と捉えていれば、産婦を信頼するために妊娠中から継続的で対等な関係を築き、出産中に産婦が主導権を持てるようにするでしょう。一方、助産を「産婦を管理すること」と捉えていれば、継続的で対等な関係の構築を重視することなく、出産中に医療者が主導権を持てるようにするでしょう。助産師が「自分は主導権を取っているつもりはない」「自分は女性中心のケアをしているつもりだ」と思っていたとしても、それが「つもり」にすぎないか、助産師が本当に産婦を信頼しているかは産婦には透けて見えています。

あなたの助産観はどちらでしょうか？ あなたのケアを受けた産婦さんは、「この人は自分を信頼している」と感じたでしょうか、

それとも「この人は自分を管理しようとしている」と感じたでしょうか？ あなたの言動からどのような出産を体験し、どのような育児観を持つようになったでしょうか？（用語解説を参照）

### 用語解説

#### 助産観

助産観とは、助産についてそれぞれの人が抱く考えです。「助産哲学」「助産理念」ともいいます。国際助産師連盟（ICM）は「どんな職業にも、それを支え、強化し、発展を導く構造を構築する必要がある<sup>3)</sup>」とし、その構造（プロフェッショナル・フレームワーク）の要素のひとつに助産哲学を挙げています。ICMの助産哲学では「助産ケアとは、女性の文化的信念・文化的慣習を尊重しながら、女性の生殖と性に関する健康と権利を促進・保護・支持すること<sup>4)</sup>」とされています。

## ピットフォール



自分の言動が、産婦にどのような暗黙のメッセージを与えているかを常に意識してください。どんなにあなたが「私はあなたを信頼しています」「主導権はあなたにあります」というメッセージを発しているつもりであっても、産婦にはそう伝わっていない場合があります。通常、事例検討ではアセスメントの判断の良しあしについて議論されていますが、「産婦さんがこういう状態のときに自分はこういうふうに感じてこう言った（した）のだけれど、産婦さんにはどう感じられたらどうか」「なぜ産婦さんはあのときこう言った（した）のだろうか」などについても議論しましょう。あなた自身のケアの質が高まるだけでなく、職場全体が「産婦を信頼する」ケアを大切にするようになるはずですよ。

## 最新トピックス

## 助産師による継続ケアの効果

2021年2～3月に出産ケア政策会議が、第1子出産後1年未満のローリスク産婦を対象に「子育てアンケート調査」（有効回答1,143）を実施し、育児不安の高い産婦の割合は、〈継続ケア（産前・出産・産後を通して同じ助産師に提供されるケア）を受けなかった産婦〉では28.7%、〈継続ケアを受けた産婦〉では10.1%と、前者は後者の3倍近くに達しているという結果を得ました<sup>5)</sup>。この結果は、産婦と継続的な関係のある助産師の方が産婦を信頼し、そのような助産師が出産中にケアを行うことによって、産婦は子との絆や子育てへの自信を得ている（図）ことを示していると考えられます。

## 引用・参考文献

- 1) 中野裕子（日本妊産婦支援協議会りんごの木 理事）の言葉。
- 2) 筆者が「日本妊産婦支援協議会りんごの木」および「出産ケア政策会議」の活動などで出会った母親たちが語った出産体験談より抜粋。
- 3) International Confederation of Midwives. 2021. 1.  
<https://internationalmidwives.org/assets/files/general-files/2021/12/professional-framework-en.pdf> [2020.2.19]
- 4) International Confederation of Midwives (ICM). ICM's Professional Framework for Midwifery. 2021.  
<https://internationalmidwives.org/our-work/policy-and-practice/icms-professional-framework-for-midwifery.html> [2020.2.19]
- 5) 古宇田千恵. 産む側が求める継続ケア. 第35回日本助産学会学術集会. 2021.